

麦づくり情報(No.4)



1. 麦作況情報田の生育概況(3月18日現在)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛津	サチホ ゴールドン 4条播き	本年値	12/14	44.0	972	8.6	45.0	草丈は3カ年値より高い。(112%) 茎数は3カ年値よりやや少ない。(96%) 葉令からみた生育は3カ年値並み。 ※3カ年平均値(農試データ)
		3カ年値 ※参考	12/11	39.4	1015	8.7	—	
大和	シロガネ コムギ 8条播き	本年値	11/27	54.8	625	8.3	42.8	草丈は平年より高い。(128%) 茎数は平年より少ない。(87%) 葉令からみた生育は平年並み。
		平年値	11/29	42.8	719	8.5	45.6	

生育は平年より早く進んでおり、今後の気温が平年並みで推移すれば、**出穂時期は平年より1週間ほど早く**なる見込みである。圃場全体的に葉色が淡いので、小麦の穂揃期追肥を確実に実施すること。

2. 今後の管理

○小麦の穂揃期追肥

タンパク質含有率を確保するため、**穂揃期**(全体の8割の穂が出穂した時期)追肥を、**遅れないよう確実に施用する**。

品 種	窒素量	実肥の施用量(※大豆跡も同量)
チクゴイズミ	2kg	硫安 10kg または 尿素 5kg
ミナミノカオリ	4kg	硫安を 20kg または 尿素 10kg

※シロガネコムギは葉色が SPAD40 以下の場合のみ窒素量 2kg/10a を施用

(施用時期が出穂 18 日以降になると、タンパク質含有率向上効果が低下する)

※極端に葉色が淡い(SPAD 値 40 以下)圃場については、早め(出穂始めから穂揃期)に窒素量を基準より 0.5kg 程度増やして施用する。

○病害虫防除 網斑病・赤かび病は**予防**が基本です(散布時期が遅れないよう各圃場の状況確認を)

◆網斑病：一部圃場にて網斑病が発生しており、今後の気象予報では発生しやすい条件となっている。登熟に影響し減収・品質低下となるので、上位葉に進展している圃場は、早急に薬剤散布(チルト乳剤等)を行う。

大麦の採種圃

- 出穂期～穂揃い期に網斑病対策(チルト乳剤等)は**必須**です!

◆赤かび病：**はるか二条およびパン用小麦**については、**2回防除**する

大 麦

- 蒴殻抽出始め(=出穂期の約2週間後)に防除
※多発生が予想される場合は2回実施(1回目防除7日後)
- トップジンM水和剤を使用する場合は、収穫前30日前までの使用となっているので注意する。

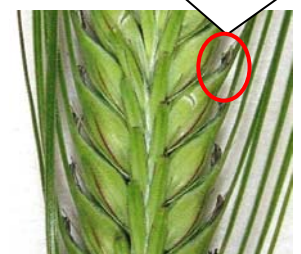
小 麦

- 開花期～開花最盛期(=出穂期の約10~14日後)に防除
※発生が多い場合は2回目の防除を実施(1回目防除の10~20日後)。



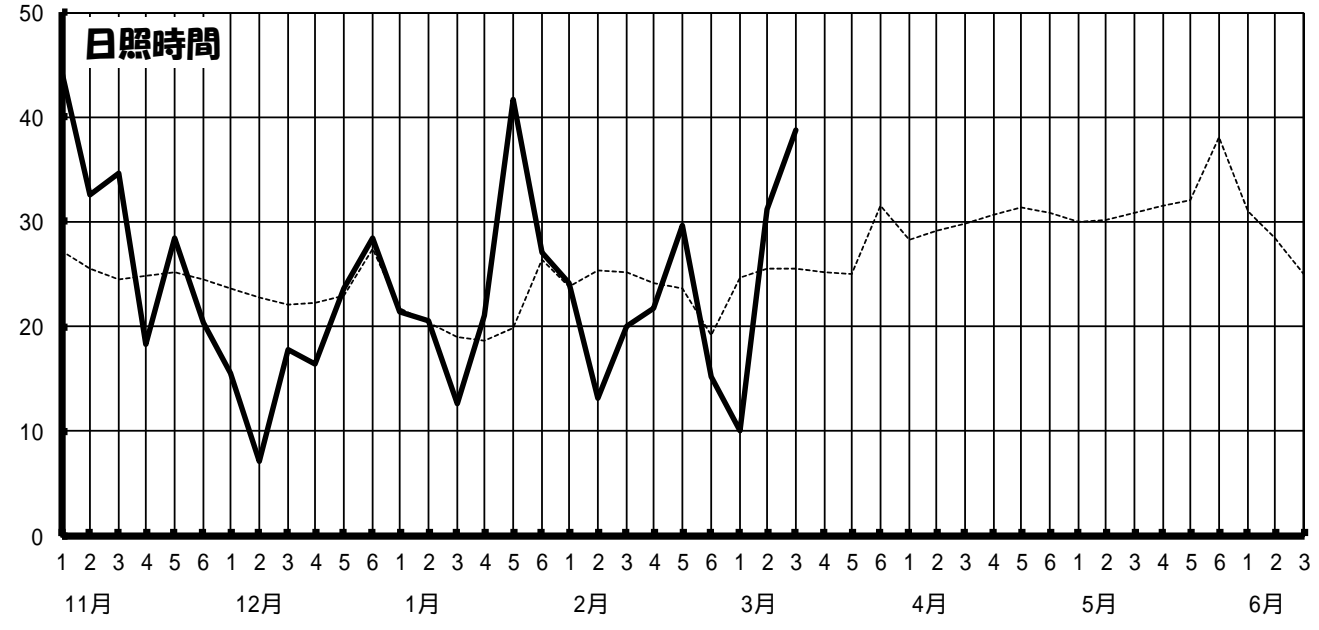
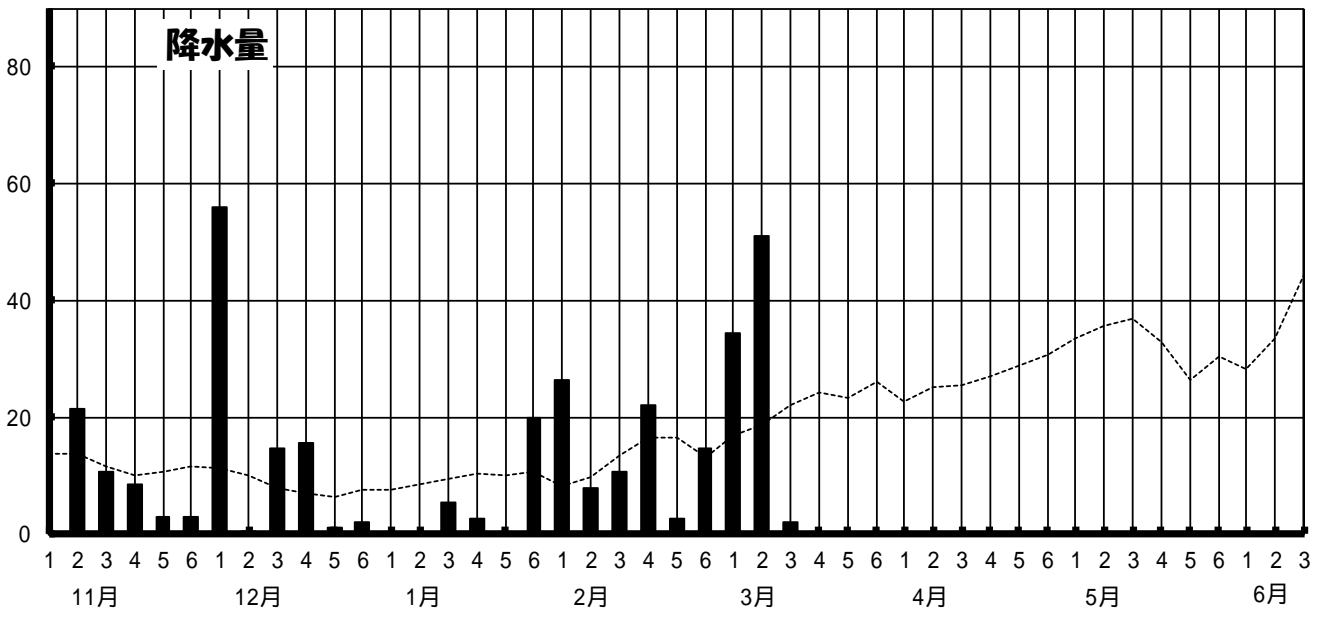
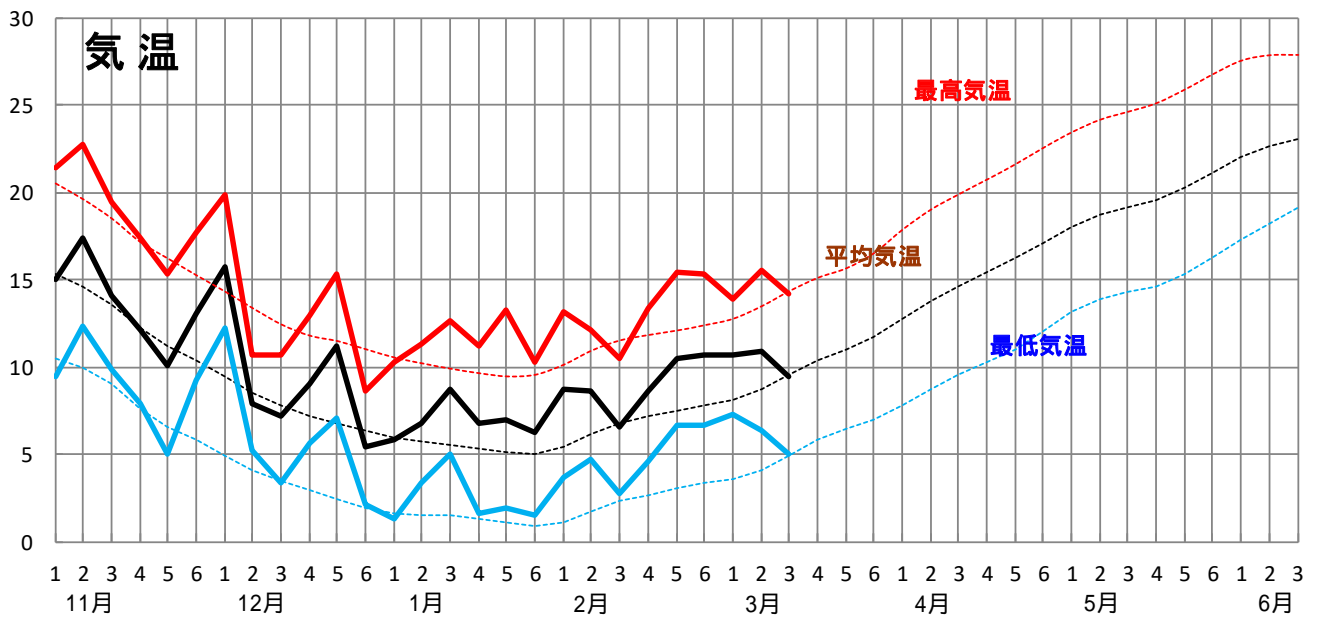
▲上位葉に発生した網斑病
(3/5、農業技術防除センター)

大麦の芒(のげ)の下から
黒い**蒴殻**が出る時期に防除



31年産麦類生育期間気象グラフ アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値